

佐々木 信義

豊里コミュニティ
推進協議会会長

広報紙で元氣と
楽しさを発信

季夏の候、豊里地区市民の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げますとともに、日頃より豊里コミュニティ推進協議会への温かいご支援並びにご協力に深謝申し上げます。

「Toyosato公民館だより」は、当協議会が平成25年4月に登米市より豊里公民館をはじめ、多目的研修センター、平筒沼農村文化自然学習館の管理・運営並びに生涯学習事業を受託した際、当時、公民館長だった小生の使命として、豊里コミュニティ推進協議会への理解と、公民館活動をPRしたい強い思いから創

刊いたしました。当時を振り返りますと、広報紙の発行する意義や目的を共有し、地域に密着していることが最も重要と考え、そのための広報紙とは何だろう…と、無い知恵を絞り熟慮いたしました。その結果、広報紙名は「Toyosato公民館だより」、A4両面印刷、月1回発行、豊里地区全世帯配布を目標としました。



小生が担当したのは創刊(1号)から24号まででしたが、そ

の後も一度の休刊もなく、今回100号を迎えましたこと、大変嬉しく思っております。

この「Toyosato公民館だより」が、当協議会並びに公民館職員の活性化や意識改革、モチベーションの向上を図りつつ、皆さんに楽しく読んでもらえ、元気を発信する広報紙になれば幸いです。公民館事業等の一方的なお知らせだけでなく、皆さんと交流を図り、皆さんの声や出来事などを積極的に発信していきたいと思っていますので、今後より一層のご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

ささき のぶよし：現豊里コミュニティ推進協議会会長。高校卒業後、ソニー(株)に入社。仙台や東京、フランス勤務などを経て、退職後、平成25年4月から2年間初代公民館長を務め、公民館だよりの創刊・編集に携りました。イラストはプロ級。海外生活の経験から外国語も堪能で、スキー、スノボも得意なスポーツマン。69歳。保手在住。

佐々木 耕悦さん

前豊里公民館館長

より多くの情報
臨場感豊かに

公民館だよりがめでたく100号に到達、第1号の刊行から8年4か月が今に続いていることを考えますと、大変感慨深いものがあります。

記念すべき第1号は、豊里コミュニティ推進協議会が登米市から指定管理を受け、活動を開始した翌月、即ち平成25年5月に発刊。以来、公民館事業のみならず協議会の活動状況を逐次掲載しており、公民館だよりは、協議会と公民館の歴史そのものといっても過言ではありません。私が公民館だよりに携わったのは、第25号から第84号までの

5年間でしたが、編集に当たっては「単なる事業報告にならないように」というのが自分なりのこだわりでした。



編集者によって、紙面の雰囲気さがらっと変わりますね

公民館事業には、多くの参加者のほか諸事情により参加できなかった方々もおられます。そのため、事業や行事がどのような内容でどう進められたか、参加者の様子はどうかであったかなど、その場の雰囲気が十分に感

じられる、いわば『臨場感』が伝わるように心掛けました。しかし、限りある紙面に多くの情報を詰め込めば、見やすい広報紙にはなりません。多くの情報をいかに効率よく要約し、見やすく表現できるかが広報紙づくりの大きな課題です。現時点においても、編集に当たってはこの課題に取り組む努力が感じられ、職員の皆さんに敬意を表します。

終わりに、公民館だよりをご愛読いただいている皆様に心から感謝申し上げます。

ささき こうえつ：高校卒業後、豊里町役場、登米市役所に勤務。平成27年4月、第2代公民館長に就任。公民館だよりの編集にパソコンソフトを取り入れ、親しみやすさを追求しました。

最近初孫が誕生したことがうれしく、毎日が楽しいと話しています。囲碁を愛し、歴史に造けいが深い。72歳。加々巻在住。

新町・守屋 博さん

遠きにありて思う古里

機に豊里に帰りました。室生犀生の詩に「ふるさとは遠きにありて思うもの」という一節があります。望郷の念か決別か解釈は複雑ですが、古里あつての自分がいるのは現実です。豊里のことをよく知らないまま離れた約50年の空白期は全く浦島太郎状態です。世代の違う人たちばかりのこの町にいかにし受けてもらえらるか、不安を抱えつつ戻ってきました。認めてもらおうと進んで町の行事などに参加しました。その仲立ちとなり大いに助けてもらった

のが公民館です。高齢者となった今も、この町で幸せな毎日を満喫しています。もりや ひろし：「カメラといえど守屋さん」。写真の腕前は、だれもが認めるどころです。公民館の事業などでは多くの写真を撮影し、参加した皆さんのにこやかなベストショットを、これまでも数多く掲載させてもらいました。実は表紙の上段にある写真も守屋さんの手によるものです。いつもすてきな写真をありがとうございます。

下町・西野 道子さん

「好き」に出会えた幸せ

フラ ハウオリ イリマ HULA HAUOLI ILIMA 公民館だより刊行100号おめでとうございます。公民館とのご縁を頂いたのは今から7～8年前。「友人知人を増やさねば」と必要に迫られ、手始めにと公民館の催しに参加したのがきっかけでした。パソコン教室・料理教室・女性セミ

ナーと色々経験させて頂き、ある日舞い込んだフラの体験教室のお知らせ。運動不足を感じていたことから軽いノリで参加したものの…。楽しいフラの曲が流れる中、手も足もバラバラでまるでピノキオのよう。何から何までチンプンカンプンでした。それでもできなかったことができるようになることがうれしくて、以来7年以上も続けることができています。友達も沢山できました。公民館の皆さんにはいつもご迷惑をお掛けして申し訳なく思っ

ていますが、おかげさまでこれからの私の”老後”は楽しいものになりそうです。にしの みちこ：いつもすてきな笑顔で背筋をピンと伸ばし、さっそうと公民館に登場する西野さん。さすが長年フラダンスを精力的に続けているのも分かりますね。西野さんが参加しているフラダンスサークルでは、随時メンバーを募集しているそうです。興味のある人は、ちょっとのぞいてみてはいかがでしょうか。